

# 2021年 お勧め開発環境 VS Code

番外編

コンテナを利用して開発したアプリケーションをクラウド・サーバへ配置する

山田 英伸

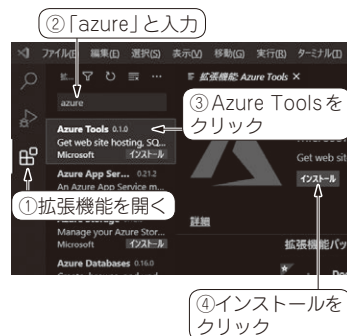
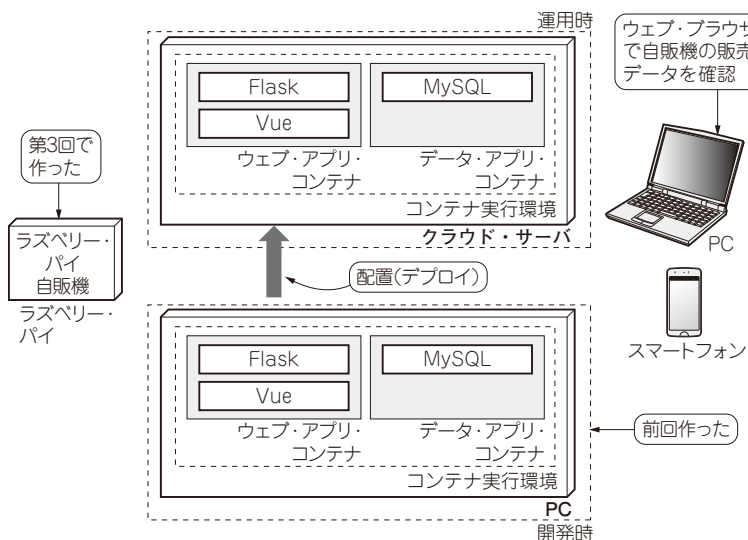
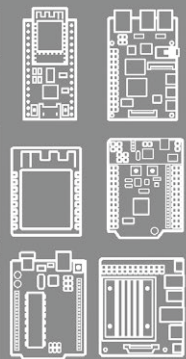


図2 Azure用の拡張機能をVS Codeにインストール

図1 コンテナを使えば開発PC上で作ったシステムをそのままクラウド・サーバへ配置できる

前回(第4回, 2021年6月号)はラズベリー・パイを使った装置と通信し, そのデータを管理するサーバ機能をPC上でDockerコンテナを利用して作りました。

今回は, この管理サーバ機能を, コンテナごとクラウド・サービスに配置し, 稼働させます(図1)。

コンテナには, 管理サーバの開発に使ったライブラリなどが全て含まれているので, クラウド・サーバへ別途ライブラリのインストールなどをしなくても開発時と同じ環境を再現できます。

クラウド・サービスは, マイクロソフトのAzureを利用します。この作業もVisual Studio Code(以降VS Code)の拡張機能を使って行います。

## クラウド・サービス Azure を使うための準備

Azureを利用するにはアカウントの作成が必要です。アカウントは次のウェブ・サイトから作成できます。

<https://azure.microsoft.com/ja-jp/free/>

## ● クラウド・サービスの費用の見積もり

今回作った管理サーバでは, ウェブ・アプリケーション実行用とデータベース(MySQL)用の2つのコンテナを使っています。これらをAzureのContainer Instancesを用いて動作させるのですが,

- コア数2.01個
- メモリ2.1Gバイト

で計算(管理用のコンテナ分含む)すると, 1カ月の稼働で9,500円程度の費用がかかります(執筆時点での価格)。

コンテナ・イメージを保管するレジストリについても費用が発生します。一番安いBasicを選ぶと1カ月当たり580円程度になります。

なお今回の内容であれば, 初回に付与されるクレジット分で十分試せるかと思います。

## ● Azureの利便性を上げる拡張機能がある

Azureを使いやすくできるVS Code用の拡張機能 Azure Toolsをインストールします。VS Codeの画面

第1回 Wi-Fi付き600円マイコンESP32にイイ理由(2021年3月号)

第2回 ESP32で試すデバッグ&分析(2021年4月号)

第3回 ラズパイのリモート開発が便利になる拡張機能 Remote Development(2021年5月号)